

<行動の法則と分析、アセスメント、支援について>

- ・行動の法則とABC分析について

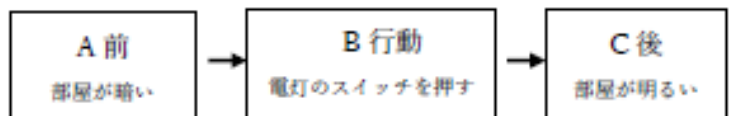
行動とは

○動詞「～する」	×否定形「～しない」
○教えることができる	×受け身「～られる」
○死人に出来ること以外すべて	×状態「～している」

行動のつながり

- ・行動は、直前と直後の環境変化の影響を受ける
- ・行動の直前のきっかけになることを先行事象
- ・直後の環境変化を後続事象という

⇒



行動が増えるしくみ＝強化（好子出現：またやりたい！しくみ 嫌子消失：嫌なことを消すしくみ）

行動が減るしくみ＝弱化（その時だけ減る）、消去

子どもの好子・嫌子をアセスメントする

標的（ターゲットとする）行動の決定

- 何が問題か？
- 問題となる行動は何か？
- 行動を具体化する？
- ※「～しない」は行動ではない ※曖昧な表現は避ける

行動の原因が分からない場合、印象に流されないよう直接観察して記録を取る

- ・スキャッタープロット：いつ頃多いのか、少ないのか行動の傾向を探る
- ・ABC分析：行動の直接の因果関係を探る

※分析のポイントとして、行動の原因に精神や概念を持ち込まない



- ・分析から方向性を検討する
- ・自立を伸ばす
- ・生起頻度を確認して評価する
 - 行動分析からの介入方法が適切かどうかを評価する
 - 行動は減っているのか？増えているのか？変わらないのか？
 - 記録と評価をしながら客観的に確認